

2017年4月3日

七ヶ浜みんなの家 はまのわ通信 vol.3

RSY 七ヶ浜事務局

『七ヶ浜みんなの家 はまのわ』は基礎工事及び電気・ガス・水道の配管工事も本格的に始まり、住民の期待も高まっています。RSYでは3月19日(日)にこの施設の利用について住民の皆さんと意見交換するワークショップを開催しました。幼稚園児から大人まで総勢30人程に集まっていただき、「みんなの家がどんな場所になったらいいか」をテーマに話し合いました。子どもたちからは「みんなの家を知ってもらえるようにマスコットキャラを作って宣伝しよう」という声や、お母さん世代からは、「部屋の一部を住民に貸し出して、親子や世代問わず集まれるイベントを開催したい」など、さまざまな声が挙がりました。これらの意見を生かした活用方法を考えたいと思っています。一方、七ヶ浜町は3月30日(木)に「応急仮設住宅閉所式」が行われました。すべての仮設住宅が無くなり、被災地にも転機が訪れています。閉所式では、挨拶をされた住民代表から「これからは移転後のコミュニティの再構築が課題である。仮設住宅生活の6年間で一人の孤独死も出さなかった本町の自慢を、災害公営住宅でも引き継いでいきたい引き続き関係各所には助力をお願いしたい」とありました。『七ヶ浜みんなの家 はまのわ』がこうしたコミュニティ支援を踏まえた憩いの場になるよう住民の声を聴きながら一緒に創り上げていきます。



基礎工事が進む『みんなの家はまのわ』



仮設住宅閉所式 住民から町長へ鍵を返還



ワークショップ 幅広い世代が集まり意見を出した



ワークショップ 子どもたちが意見発表